

的外



みのる法律事務所
弁護士 千田 實
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL:0191-23-8960
FAX:0191-23-8950

みのる法律事務所便り
令和5年4月第396号

い な べ ん だ べ ん く
田舎弁護士の駄弁句

137



誰だって 楽しく生きる それが夢
夢を壊すは 争い事ぞ



令和5(2023)年4月1日
あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

誰だって、たった一度の人生は、楽しく生きたいと思うのは当たり前です。親父の年を10年も超えました。改めて親父の人生を振り返ってみました。親父の人生は、戦争によってやりたいことをやれなかったように思えて、気の毒だったという気がしてならないのです。

『兄・中学生物語』では、親父はダメ親父で、長兄が親父に代わって中学生から一家の大黒柱となって支えたことを書きましたが、親父だって、戦争がなければ、立派な商人となれたのではないかという気がするのです。

戦争は、人生を楽しく生きたいという誰もが持っている夢を壊す最大の原因です。こんなことは、誰でも分かっているのですが、世の中はそうなっていません。

プーチンなどという気が狂ったとしか思えない権力者、戦力増強を強調する岸田政権、それらを支える政治家、そしてそれら政治家を支える国民。どうなっているのでしょうか。私も国民の一人です。このままではいられません。何とかしなければという思いです。

誰もが思っている楽しく生きられる世の中を作るため、誰もが思っている楽しく生きたいという夢を壊す戦争に向かうような「戦力増強」、「軍事費増大」などという戦争を目指すような政策には反対しましょう。

『兄・中学生物語』を書きながら、親父を思い出し、「戦争反対」は言わなければとこんな駄弁句を詠みました。

馬鹿でいい 不正義だって かまわない
戦うよりは 仲良しがよい



令和5(2023)年4月1日

あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

プーチンは、「正義のために死んだのだから、息子さんの死を嘆くことはない」と言うような発言を、ウクライナ戦争で息子を亡くしたお母さん達に言ったという報道に接しました。もうプーチンは、人間の心など分からなくなっているようです。正義も不正義も命があつての話です。

そもそもプーチンの言う正義など、プーチンがでっち上げた屁理屈です。自分に都合がよくなるように、こじつただけです。プーチンのこじつけた正義のために息子を殺され、納得する母親はいません。

馬鹿と言われようと、不正義と言われようと、私は戦争に反対します。「現実を無視した馬鹿野郎」と言われても、「いい年をして青臭い」と言われようとも、戦争に反対し続けます。「正義の戦争よりも、不正義でも平和がいい」という考え方を言い続けます。頭が良いと思いがっている人より、誰とでも仲良くできる馬鹿の方が好きです。

人生は短い、と言いますが、80歳を超えたら、それを実感します。誰とでも仲良く生きたいと本気で思うようになりました。馬鹿と言われてもいいのです。不正義と言われてもいいのです。身のまわりにいる人と仲良くしたいのです。

『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』という『いなべんの哲学』を実践し、その哲学を、その夢を、実現したいものです。生きている限り、まわりの人と、世界中の人と仲良くしたいのです。

そのような思いでいますので、どうか仲良くお付き合いを下さいますように、心底よりお願い申し上げます。



新刊書

『兄・中学生物語』のご案内

令和5（2023）年4月20日に『兄・中学生物語 第1話—小学6年生の決断—』が発売されます。この事務所便りをお読み下さっている皆様には、いの一にお読み戴きたく、この事務所便りといっしょにお送りします。お時間のお許しになった時に、斜め読みでもして戴けたら幸甚です。

『兄・中学生物語は』3話となっています。第2話『あんこ生活』、第3話は『行商生活』です。第2話も第3話も原稿はできていますので、製本でき次第謹呈させて戴きます。

第1話では、不甲斐ない親父だったため、まだ中学生だった長兄が一家の大黒柱となって、一家7人の生活を支えなければならなかったことを書きました。そこでは親父は、はがゆいほどに意気地がなく、物事をやり直せる力のない父親ということになっています。

ですが、親父も戦争さえなかったら、一端の商人となっていたかもしれません。釜石市で始めた商売は順調だったのですが、戦争で釜石市から実家のある寒村の大原町に引き揚げなければならなかったのです。

寒村には商売をする場がなく、親父は肉体労働ができず、無為徒食をし、家族の生活を支えることができず、中学生の長兄が一家の生活を支えなければならない状況となったのです。

親父にはやる気が欠けていたと思えるようなところもあり、その責任は少なからずあると思いますが、戦争によってやっと軌道に乗った商売を止めなければならなかったという不運も見逃せません。

戦争は、天災ではありません。人災です。人間の不注意や怠慢によっておこる災害です。その責任は戦争を行った人間にあるのです。

親父は昭和50（1975）年8月26日に亡くなりましたので、もう47年にもなります。いまさら親父が商売できなくなった責任を誰かに追及しよう

などという考えはありませんが、戦争はさせてはならないという思いは消えません。『兄・中学生物語』を脱稿し、その思いが一層強くなりました。

『兄・中学生物語』を書き終えて、駄弁句の解説の中でも紹介しましたが、「正義のために戦死することは、名誉なことであり喜ばしいことだ」などと語る権力者の人間無視とも思える発言を許すような国民となってはならないと改めて心に「戦争絶対反対」を刻み込みました。

「戦力増強」、「防衛費増額」、「9条改定」、「敵基地攻撃」などという考えに対しては、絶対反対の考え方を明確にしなければならぬという思いが一層強くなりました。

『兄・中学生物語』は、我が家族の話にすぎませんが、その裏には、「戦争絶対反対」の気持ちがこめられていることを知ってほしいのです。私達家族が戦争から受けた被害はせいぜいこんな程度でしたが、世間には、もっともっと大きな被害を受けた人達は沢山いたのです。

戦争の被害を直接受けた人は、もうこの世にはいなくなってしまう。語れる時に語り、書ける時に書いておきたいのです。

そんな思いもこめて、『兄・中学生物語』を書きました。「戦争絶対反対」の考えを示すために、それぞれの立場でやれることをやりましょう。私のやれることは、講演をしたり、こんな駄弁本を書くということです。

先般の講演でも同じような話をしたら、講演後に態々「共鳴した」と言ってくれていた一関市大東町の菊地和夫さんが、中国に出征した元住民が書き残した書籍『泥まみれの大陸――兵士の記録』を復刻しようとしていることを2023（令和5）年4月8日の岩手日報の記事で知りました。菊地さんからは、「先生の講演を聴き、自分のやれることをやってみることにしました」という話をもらい、感激しました。国民は、それぞれの立場で、それぞれがやれることで、戦争反対の気持ちを示して参りましょう。

An illustration of two blue hands holding up a light-colored rectangular sign with the text "NO WAR!" written on it in black capital letters.